

町会ってなにしてるの？ どうして必要なの？

町会って何？

自分たちの住む地域を、自分たちの手でより良くするための活動を行っている任意の自治組織です。さまざまな活動を通して、安心・安全な暮らしやすいまちづくりを目指しています。

例えば、こんな活動を行っています。

- ① 住民相互の連絡（市からの情報提供、町内事業のお知らせなど）
- ② 生活環境の整備（公園等の管理、河川清掃等）
- ③ 地域福祉や公民館活動（居場所づくり、住民の交流事業など）
- ④ 交通安全及び防災、防犯活動（防犯灯の維持・管理、防災訓練など）

町会は、その地域に住む人全員が参加できる公共的な性格を有し、松本市では、地域住民の意見を代表する組織としての役割を持っています。

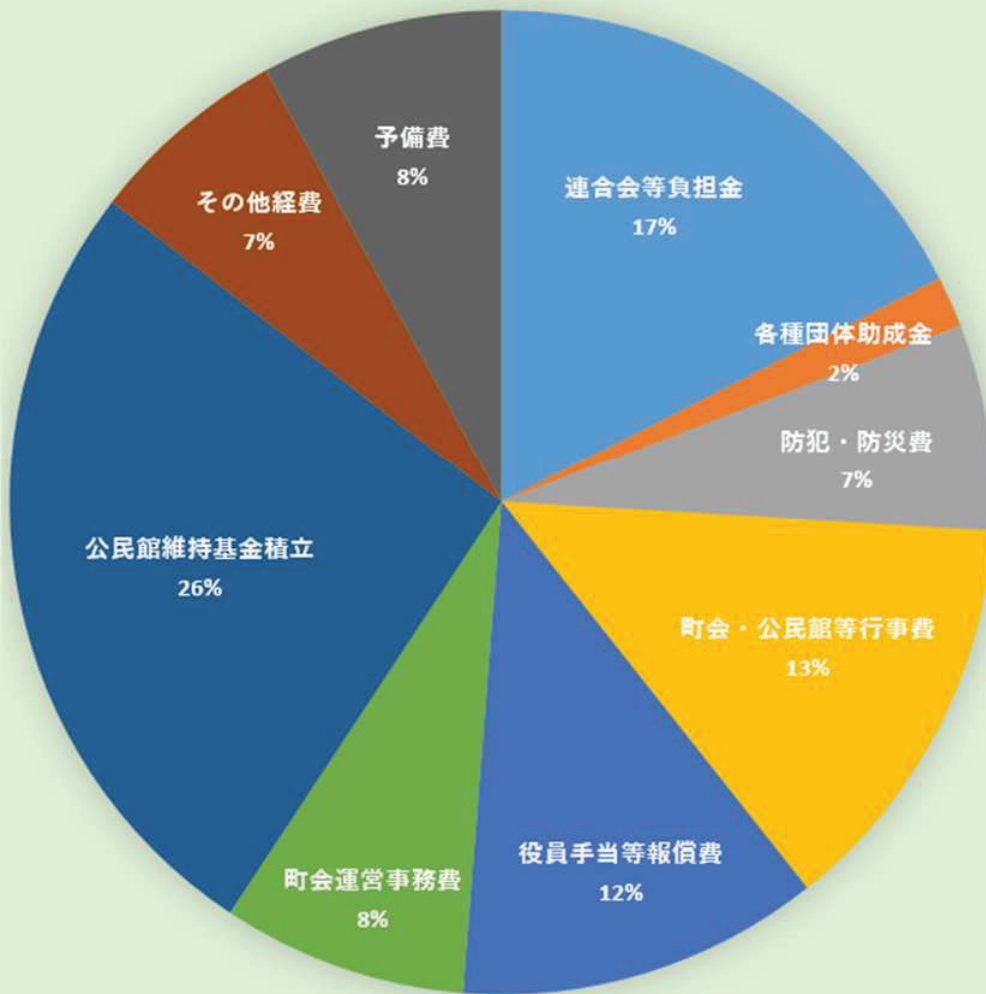
場所や規模などにより、さまざまな町会があります

	A 町会（住宅地）	B 町会（中山間地）
人口・世帯数	2,329人 1,098世帯（R7.4.1現在）	252人 101世帯（R7.4.1現在）
町会加入率	57.5%	68.3%
町会費	年額 10,000円	年額 11,300円
予算額	9,600,000円	1,480,000円
実施事業	・納涼夏まつり ・敬老祝賀会 ・情報メールシステムによる安否確認訓練 ・公民館定期清掃 ・町会行事の情報発信 ・河川草刈り作業等 ・防犯灯の設置、管理	・納涼祭 ・敬老祝賀会 ・自主防災訓練 ・出張ふれあい健康教室 ・公民館前庭花壇づくり ・道路一斉清掃、公園除草作業等 ・防犯灯の設置、管理

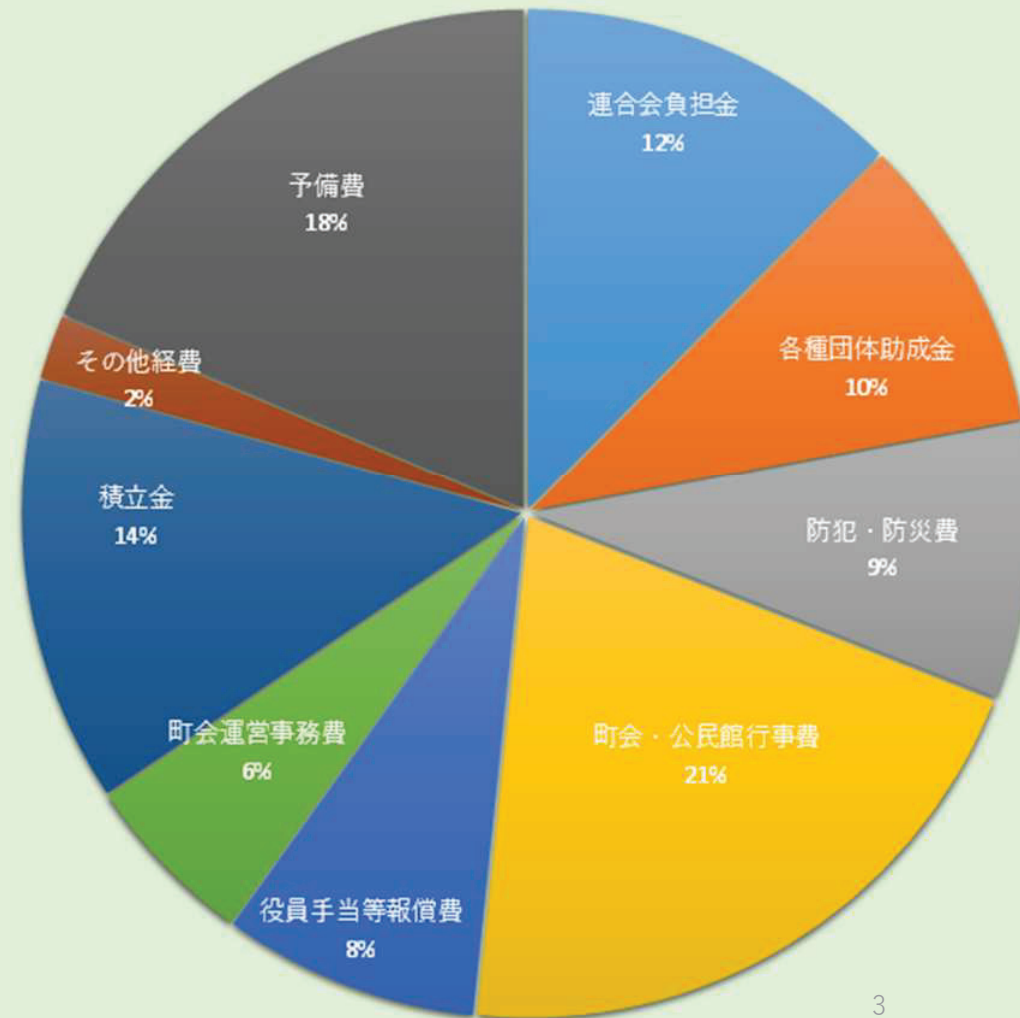
誰もが暮らしやすい地域にするため、次のような活動を行っています。

- ・防犯灯の設置・管理により、夜間の歩行者などの安全・安心を確保しています。
- ・避難所等で使用する防災備品を購入して、いざという時に備えています。
- ・誰もが気持ちよく公園を使えるよう、清掃、草取り等の維持管理を行っています。

A 町会 令和 6 年度予算内訳



B 町会 令和7年度予算内訳



町会が活動を通じて実現したいものとは？

町会はこんな社会の実現を目指しています！

- ① 人と人とのつながりをつくる。
- ② 「みんながひとりのために、ひとりがみんなのために」を実現し、お互いに支え合える地域社会をつくる。
- ③ 組や常会、町会単位で連帯・集団化して、小さな声を大きな力や発信にできるようにする。

町会の運営、課題は？

松本市の町会は今、こんな課題を抱えています。

① 役員の負担が大きい。

例えば、会議の開催・運営や資料の作成、町会費の徴収・支出、行政からの依頼事項の処理、苦情への対応、行事の企画運営、広報等の配布… 様々な事柄について携わり、調整等を行う必要があります。

② 次の役員を引き受けてくれる人がいない

改選期になると、町会の役員は慌ただしくなります。負担が大きいと思われる町会役員は引き受けてくれる人を探すのは容易ではありません。役員をやっている人にとって大変なことは、次の役員探しという方も大変多くいらっしゃいます。

③ 町会未加入者が増えてきている

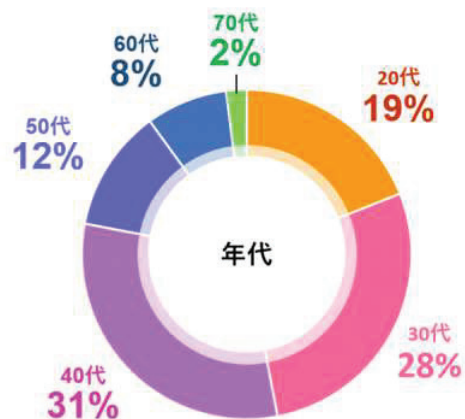
「高齢になって役員が引き受けられない」「町会費を払っていても加入しているメリットが感じられない」「そもそも任意加入なのでやめたい」などといった理由から町会加入を拒否する方が徐々に増えており、不公平感を感じている方も多くいます。また、「やめられるのであればウチもやめる」というドミノ現象を心配する役員も多くいます。

④ 少子高齢化と関係の希薄化が進んでいる

若い人が少ない、子どもがいない、一人暮らし高齢者が増えている…。一方で隣近所にどんな人が住んでいるか関心がない、挨拶はしても会話はしない…。関係性が希薄化することで、子どもの行事ができない、高齢者が孤立化する、町会の担い手が確保できない、といった事態を引き起こしています。

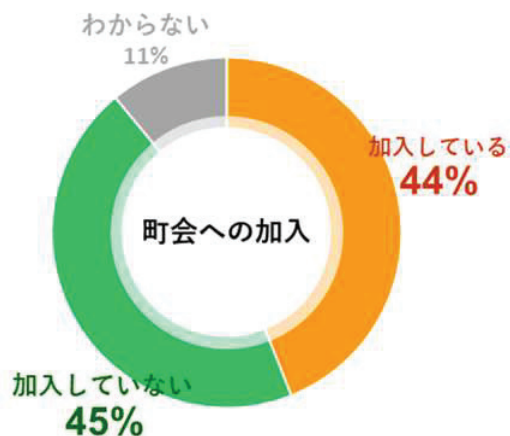
移住者アンケート2024

(回答期間：令和6年11月24日～12月31日、有効回答数：121件)



【積極的に参加している方のコメント】

- ・ お祭りや運動会、町内会の草刈り、防災訓練、清掃活動などに参加。
- ・ 参加できるものはほとんど参加し、運営にも携わっている。
- ・ 子どもが関わる行事や楽しめそうなイベントにはできる限り参加。
- ・ 地域の伝統行事（お船祭り、御柱祭など）には積極的に参加。
- ・ 東京など都市部に比べてつながりが強いが、強制されることはなく適度な距離感が良い。
- ・ 近所の方々が親切で、子どもを見守ってくれる。
- ・ 地域コーディネーターや地元の人々が声をかけてくれるため、参加しやすい。
- ・ 移住者にも比較的オープンな地域で、参加しやすい。
- ・ 地域のイベントを通じて、新しい人とのつながりができるのが楽しい。



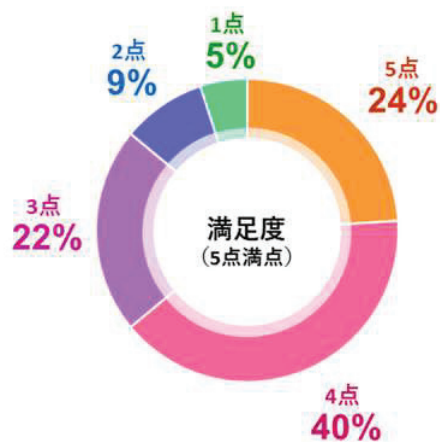
【町会活動で課題・懸念を感じていること】

- ・ 地域イベントが多すぎると感じる。
- ・ 町会費が高く、費用に見合ったメリットを感じられない。
- ・ ゴミ当番や清掃活動は必要だが、それ以外の負担が大きいと感じる。
- ・ 町会の活動が閉鎖的で、新しく入る人が馴染みにくい。
- ・ 伝統を重んじるあまり、現代社会のニーズに合っていない部分もある。
- ・ 若い人や女性が町内会に関わる機会が少なく、変革が進みにくい。
- ・ 町内会が強制ではないが、入るように圧力を感じる場面がある。

移住者アンケート2024

(回答期間：令和6年11月24日～12月31日、有効回答数：121件)

移住満足度



満足ポイント

・ 自然環境	99件
・ 町の規模感	48件
・ 食べ物	35件
・ 住環境	29件
・ 子育て、教育	20件
・ 人付き合い、 地域活動	13件
・ 観光施設	10件
・ 商業施設	8件
・ 他	

【参加しない、できない】

- ・ 町会には加入しているが、イベントにはほとんど参加していない。
- ・ そもそも案内が来ないため、参加機会がない。
- ・ 地域イベントに興味がなく、参加するつもりもない。
- ・ 町内会の活動に対する不満（防災訓練がない、宗教活動が多い等）で退会した。
- ・ 近隣の市のイベントには参加するが、松本市内の行事には参加していない。

【町会に関わっていない・関わりたくない】

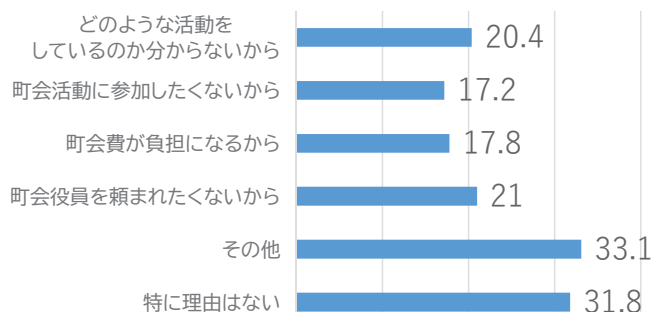
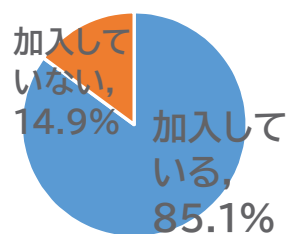
- ・ 入会金が高く、必要性を感じないため加入を断った。
- ・ そもそも地域コミュニティの存在を知らない、または興味がない。
- ・ 賃貸住まいのため、地域との関わりがほとんどない。
- ・ 既存のコミュニティが固まっており、新しい人が入りづらい。
- ・ 個人情報の流出や宗教活動が絡むため、地域活動に参加したくない。
- ・ 町内会の活動が面倒に感じる。
- ・ 地域の人間関係が密接すぎて、わずらわしさを感じる。

○市民意識調査

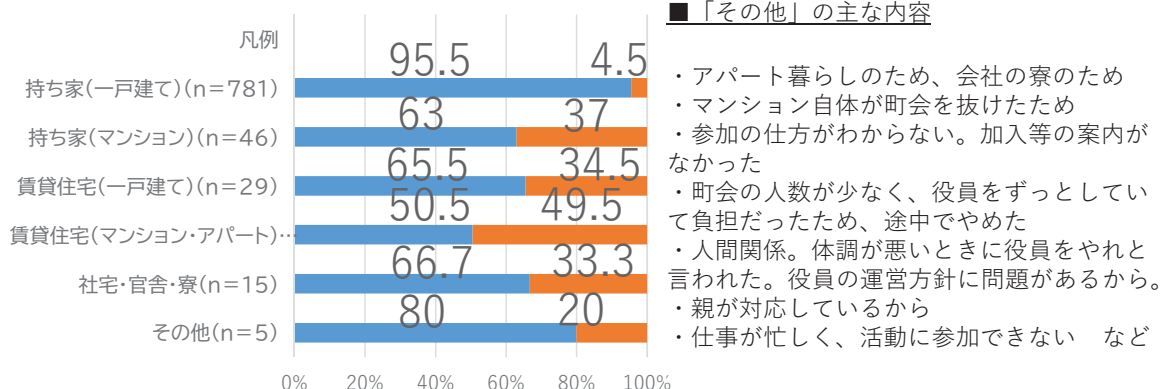
7. 町会への加入状況や町会で行う必要があると思う活動

- ・町会への加入状況をみると、全体では加入している割合は85.1%である。
- ・居住形態別にみると、「持ち家(一戸建て)」の加入率が95.5%と高い一方、「賃貸住宅(マンション・アパート)」は50.5%と低い。
- ・町会に加入していない者の加入していない理由としては、「特に理由はない」「その他」が多い。その他の内容としては、アパート暮らしのため参加の仕方がわからない、役員が負担だった、人間関係などが挙げられている。

(1)町会への加入状況【18歳以上】 (2)【回答対象:町会に加入していない者】
町会に加入していない理由[複数回答]

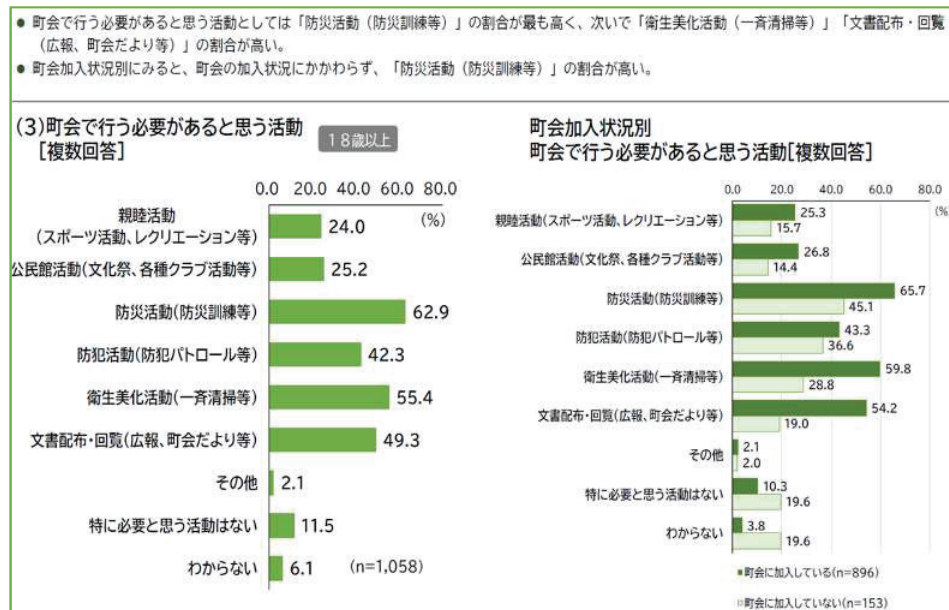


居住形態別 町会への加入状況



■「その他」の主な内容

- ・アパート暮らしのため、会社の寮のため
- ・マンション自体が町会を抜けたため
- ・参加の仕方がわからない。加入等の案内がなかった
- ・町会の人数が少なく、役員をずっとしていて負担だったため、途中でやめた
- ・人間関係。体調が悪いときに役員をやれと言われた。役員の運営方針に問題があるから。
- ・親が対応しているから
- ・仕事が忙しく、活動に参加できない など



OS地区アンケート調査

問3 4 あなたの世帯は町会に加入していますか？

1 はい	690	93.0%
2 いいえ	34	4.6%
3 不明	18	2.4%
計	742	

問3 6 問3 4で「いいえ」を選んだ方にお聞きします。町会に加入していない理由は何ですか、※複数回答可

1 町会活動に参加したくないから	10
2 町会費が負担になるから	9
3 町会役員を頼まれたくないから	10
4 町会加入の必要性がないから	9
5 特に理由はない	11
6 その他	13

①解散した自治組織がある都市と松本市との比較

	松本市	他県A市 (自治組織解散あり)	他県B市 (自治組織解散あり)	他県C市 (自治組織空白地・解散あり)
人口 世帯数 面積	234,421人 109,366世帯 978.47km ²	189,591人 87,019世帯 212.47km ²	289,731人 131,110世帯 886.47km ²	132,906人 60,231世帯 213.84km ²
財政力指数 (令和5年度)	0.70	0.71	0.71	1.27
高齢化率	28.5%	31.2%	30.5	27.8%
自治組織数	485	510	382	285
解散 自治組織数	0	10	1	5
自治組織 加入率	73.1%	64.8%	84.3%	44.6%

②行政と自治組織との協働の状況

	松本市	他県A市 (自治組織解散あり)	他県B市 (自治組織解散あり)	他県C市 (自治組織空白地・解散あり)
広報紙の 配布方法	加入者→町会が配布 未加入者→公共施設等	加入者→町会が配布 未加入者→公共施設等	加入者→町会配布とポス ティングを町会 単位で選択 未加入者→公共施設等	町会で配布していない (新聞折込、個別郵送、スマ ホアプリ、公共施設に設置)
ゴミステー ションの管理	・町会で管理	・町会で管理	・町会等で管理者を決め、 管理者が管理	・町会やマンション等の 管理組織で管理
防犯灯	・町会が設置・維持管理 (修繕含む)を実施 (市の補助制度あり) ・電気料(8か月相当分 を市が補助)	・町会が設置・維持管理 を実施 ・電気料 (市からの補助あり)	・町会が設置・維持管理 を実施 ・電気料 (全額市が負担)	・市が設置・維持管理を 実施 ・電気料 (全額市が負担)
道路・河川・ 公園の 一斉清掃	・町会が一斉清掃等を 実施	・町会が一斉清掃等 実施	・町会が一斉清掃等 実施	・市が地域団体や業者に 委託し実施
住民要望の 調査 (道路や水路の 改修等)	・町会を通じて要望	・町会を通じて要望	・実施していない	・実施していない

③解散の経過・原因

	他県A市 (自治組織解散あり)	他県B市 (自治組織解散あり)	他県C市 (自治組織空白地・解散あり)
主な解散理由	高齢化・担い手不足が主要因	総会等に利用していた集会所が利用できなくなり、代替施設もないことから自治会を解散（解散事例はアパート）	世帯数減少で役員確保困難 自治会間の合併による消滅 会社寮の移転に伴う消滅 社宅の閉鎖による消滅
意思決定	アンケートや総会での合意により決定	自治会内での決定	自治会内での決定
報告経路	解散自治会→連合会事務局 →市への報告	自治会→市への報告	自治会→市への報告
その他	・自治組織の連合会と連携して事業を行ってきた。自治組織を維持してきた地域と解散した地域で対応に差が生まれてきてる。 ・少子高齢化傾向	・これまでも自治組織としての機能が低下していたところに集会所利用の問題が重なった。 ・少子高齢化傾向	・元々自治会のない空白地域（マンション、ニュータウン、開発地域など）があるため、自治組織ありきの施策を行っていない。 ・流入超過で人口は増加傾向

④解散後はどうなるの？

	他県A市 (自治組織解散あり)	他県B市 (自治組織解散あり)	他県C市 (自治組織空白地・解散あり)
広報紙の配布方法	・未加入者と同じ対応 (公共施設等で受け取る)	・ポスティングによる配布へ 変更	・自治組織を通じて配布してい ないため、変化なし
ゴミステーションの 管理方法	・使用者名簿を作成、管理者を設 定し管理	・他自治組織の管理者が管理	・地域住民で管理者を決め、 管理者が管理
防犯灯の管理方法	・地域住民による管理又は撤去	※解散した自治組織に防犯灯がない	※元々市が管理している
民生委員の選出方法	地区連合会長が当該地区で探す 又は現任者が後任を探す 等	・地区より推薦	・地区推薦、公募（不足）
道路・河川・公園 などの一斉清掃の 実施方法	・実施しない	・任意による実施	・実施しない
要望調査の実施方法	・実施しない	・実施しない	・実施しない

⑤他市解散事例から見るデメリット

	他県A市 (自治組織解散あり)	他県B市 (自治組織解散あり)	他県C市 (自治組織空白地・解散あり)
住民との連絡・意見 聴取	・解散地域への意見や要望聴取は行われない ・自治会を介した従来の連絡手段が断絶	・行政からの情報が住民に届きにくくなる ・行政による地域課題の把握や対応に時間がかかる	・地域要望の聞き取りはなくなるが、個人や地域の代表の人からの要望に対して担当課が対応
行政サービス	・管理者の立たないゴミステーションの撤去・閉鎖（可能性） ・防犯灯の撤去・減少 ・「自治会でない限り対応しない」の厳格適用	・管理者の立たないゴミステーションの撤去・閉鎖（可能性）（防犯灯は所有していなかった）	・管理者の立たないゴミステーションの撤去・閉鎖（可能性） ・防犯灯は市管理のため変化なし ・管理者のなくなった市所有コミュニティ施設は廃止
災害時対応の空白	・自主防災組織なし、安否確認も実施しない	・安否確認や避難誘導等の初動対応において、住民同士の協力が困難	・自主防災組織の消滅
伝統文化・行事	・自治会解散とともに任意の活動→消失の危機	※集合住宅の解散のため影響なし	・減少・消失
住民交流	・機会減少、孤立化の懸念	・機会減少、孤立化の懸念	・機会減少（人の出入りの多い地域のため影響限定的）

デジタル化について ～現状調査の回答から～

現在利用しているものはありますか？ 回答数 443

①	利用していない	233	52.7%
②	主にLINE	91	20.5%
③	主にメール	41	9.3%
④	LINE & メール	64	14.4%
⑤	+JichiNaviなどアプリ	4	0.9%
⑥	+町会独自HP	4	0.9%
⑦	+市HP（地域の掲示板）	4	0.9%

●半数以上が、デジタル利用無し

●LINEとメールを主に利用。ただし、町会全体での利用ではなく、役員間での連絡・情報共有のみが多数を占める。

デジタル化について ～現状調査の回答から抜粋～

アプリ等	地区・町会	備考
LINE	波田地区 第11区 → 奈川地区 奈川高原 →	グループラインに72戸参加（86%） 全世帯で緊急連絡用・井戸端会議
LINEWORKS	島内地区 島高松 中山地区 和泉 和田地区 殿 波田地区 第19区	LINEのビジネス版 プライベートなLINEと分けて使える 現在、非営利団体向けプランあり （最大1,000人まで無料）
LINE公式アカウント	島立地区 南栗	防災情報ネットワーク構築
JichiNavi	和田地区 西原・衣外・中	初期登録手数料（町会収入×2%） 利用料年額（町会収入×2%）
My自治会	島内地区 ウッドタウン小宮	利用料年額：2万円（3年目以降～）
町会独自HP	鎌田地区 宮田 島立地区 小柴 笹賀地区 下二子 里山辺地区 北小松	お知らせ・おたより 行事予定・参加者募集 公民館利用予約 資料提供 etc

和田地区では ～デジタル化の取組み～

西原町会 令和6年度JichiNavi導入
令和6年9月～運用開始

地区内で共有
他町会へ波及

殿町会 令和6年度12月～LINEWORKS導入
電子掲示板 公民館予約など

さらに次年度
取組む町会が増加

令和7年度松本市地域チャレンジ応援事業補助金活用

下和田町会 LINEオープンチャット 紙のペーパレス化
公民館Wifi等のICT環境整備 ICT講習会

衣外町会 JichiNavi導入 アプリ説明会開催

中町会 JichiNavi導入 ICT講習会
会議用ディスプレイなどのICT環境整備



衣外町会「Jichi Navi」アプリを導入

昨年度西原町会が「JichiNavi」アプリの活用を始めたのを受け、衣外町会でも、7月からアプリを導入し、町会のイベントのお知らせや報告などの情報発信をスタートしました。

アプリでできること

- 町会・公民館行事、清掃当番などの日程連絡と確認
- 市や地区からのお便りを閲覧（紙の配布物の削減）
- 各行事の参加アンケート
- 町内公民館の予約
- 町会への情報提供（イベントのお誘い、防犯情報など）
- 町会・公民館活動についての要望・意見収集
- 災害時安否確認（要救助情報の集約）

情報のやり取りが早くなり、行事の出欠やアンケートなども簡単にできるようになります。町会専用なので公私の区別もしやすいのも利点です。今後の課題は、スマートフォンに慣れていない方にも使ってもらえるよう説明会の開催など工夫していく予定です。

上條町会長

きっかけ	総会にて西原町会の取組みを紹介した際、導入の検討についての提案がされ、様々な意見があったが、前向きな方向となり、取組みを始めた。
登録数	66世帯中 30世帯 45.5%（10月9日現在）
説明会	2回（第1回6/15～運用開始、第2回8/9）
実際に使ってみて	実際に情報発信や意見集約をやってみて、わりと簡単にできていると感じている。
現状の課題	スマホに扱い慣れている人以外の人に広く登録・利用してもらうための工夫

J i c h i N a v i

JichiNavi メディア

衣外町会

衣外町会

メニュー

コンテンツ（更新順）

広報まつもと 11

11月回覧配布物

未読

今月も市・和田地区・衣外町会からの11月の回覧および配布物をお届けします。衣外町会からは23日のお十夜、和田地区からは26日の出前ふれ健についての案内があります

13 0 2025/10/29 20:19 発信

アンケート

10月26日 敬老祝賀会へのご意見お待ちしております

未回答

26日に行われた敬老祝賀会へご参加いただいたみなさん、ありがとうございました。今年度の祝賀会はいかがでしたか。来年度につなげるために、是非皆さんからのご意見を

1 0 2025/10/29 20:18 発信

ホーム

近況

お知らせ

地域ナビ

Myページ

衣外町会

公開メニュー

(組織のフォローのみ表示)

組織QR画像

記事

予定

回覧

相談

アンケート

資料

個人投稿

Webリンク

施設予約

災害安否

ホーム

近況

お知らせ

地域ナビ

Myページ

衣外町会

メニュー

11月回覧配布物

今月も市・和田地区・衣外町会からの11月の回覧および配布物をお届けします。衣外町会からは23日のお十夜、和田地区からは26日の出前ふれ健についての案内があります。是非ご覧いただき、ご参加ください。

13 0 21 2025/10/29 20:19 発信

本文コピー

添付ファイル

①広報まつもと11月号.pdf

②空港北交番だより11月号.pdf

③学校だより_芝っ子.pdf

電子回覧板 先進事例 『自治会サポ!』 (福井システムズ株式会社)



自治体のみなさまへ
このような想いはありませんか？

- ☒ 広報誌や配布物を迅速に届けたい
- ☒ もっと若い人にも地域活動に参加してほしい
- ☒ 自治会長に知らせを配信したい



自治会サポ!なら

LINE公式アカウントやメールを
通して住民の方々へお知らせ
が簡単にできるようになります。

自治会サポ!を活用いただくことで、

自治会の情報発信の
負担を軽減
することができます。

紙の配布物を削減
できるのでコスト軽減
にもつながります。

情報共有が
効率化し、地域の
つながりが強固に!

災害時の情報伝達にも
使うことができます。

自治会長様から
このような声も
いただいています



- LINEなので若い世代も参加してもらえようになった
- 様々な周知のチラシは完全に無くすことができた
- 今までよりもっと確かな情報伝達ができるようになった

自治会サポ! の主な特徴

- 1 **自治体単位での契約**
自治体が導入で、全町会・各種団体の利用可能
- 2 **LINE公式アカウントを利用**
日本一のユーザー数、敷居が低く若い人にも登録してもらいやすい
- 3 **グループ（町会・団体）ごとの配信可能**
掲示板（画像、書類投稿）・アンケート機能
- 4 **初期費用** 1, 430, 000円（税込）
月額利用料金 214, 500円（税込）
松本市LINE公式アカウント数 約10万人で見積

電子回覧板 『自治会サポ！』 他市先進事例

	福井県坂井市	千葉県松戸市
導入のきっかけ	文書などの各戸配布を負担に感じるという声から、区長業務の負担を減らすため、電子化へ。	社会全体でデジタル化の必要性が高まっている中で、課題意識を持つ多くの町会から、電子回覧板導入の要望あり。
アプリ選定の理由	KANAMETO（坂井市公式LINE）代理店である福井システムズ株式会社から提案があり、1社随契で契約	LINE全体が社会に広く浸透しているものであるため、ベースを松戸市公式LINEにすることで、町会役員も馴染みやすく、幅広い世代で情報を得やすいので、若年層の地域とのつながりの希薄化解消も期待できる
導入状況	令和4年4月から	令和6年10月から
（自治会数、利用人数）	91区、2,886名	142町会、3,886名
（利用率）	21%（91/434区）	40.8%（142/348町会）
（公式アカウント登録数）	12,882件	43,474件
費用	①システム構築費(R4) 10,494,000 ②ソフトウェア利用料 792,000 ③KANAMETO利用 1,056,000	初期導入費 1,265,000 ランニング 1団体当たり月額利用料1,200円 1ID当たり月額利用料10円 （参考）導入支援出張費・IT業務委託 16,463,700円
導入後の反応 （自治会、住民）	既読確認機能により、高齢者に対する見守り活動につながった。 子ども会や役員会などでは、100%デジタル化できた。	従来の紙回覧板の持ち回りがなくなり、負担が減ったことや、導入をきっかけに町会のデジタル化を進めることができたという反響あり
今後について （更なる活用に向けた施策や改善点など）	市からの行政配布文書はHPから、自治会内のお知らせは自治会サポ！で閲覧してもらうことで、紙配布の削減につなげる	役員中心の利用にとどまり、全体に広がっていない傾向あり、さらなる周知と加入の促進を図る

学生の町会参加に関する提言

松本市地域づくり研究連絡会 学生特別研究員

竹本 千珠（信州大学 経法学部）

上野 颯馬（信州大学 経法学部）

蘇武 拓真（信州大学 理学部）

手塚 琉盛（松本大学 総合経営学部）

小股 祐希（松本大学 総合経営学部）

大原 さくら（松本大学 総合経営学部）

1 アンケート調査について

(1) 調査目的

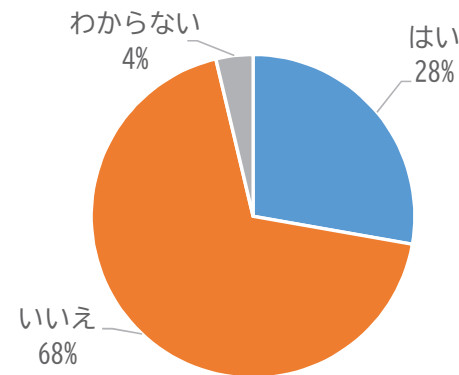
学生の町会活動の参加状況を把握するとともに、学生が町会に対し、どのような意識を持っているのかを明らかにするため、アンケート形式による実態調査を実施したもの。

(2) 調査実施概要

項目	内容
調査対象者	信州大学・松本大学等の学生（18歳～23歳）
調査期間	令和6年10月1日～10月10日
調査方法	学生特別研究員が身の回りの学生に回答を依頼
回答方法	インターネット
回答人数	54人（男性34人、女性20人）
主な調査項目	・ 属性 ・ 町会加入状況及び活動への参加状況 ・ 学生が地域と関わりを持つことの必要性及び理由 ・ どうすれば学生が町会と関わりやすくなるか

(3) アンケート結果（抜粋）

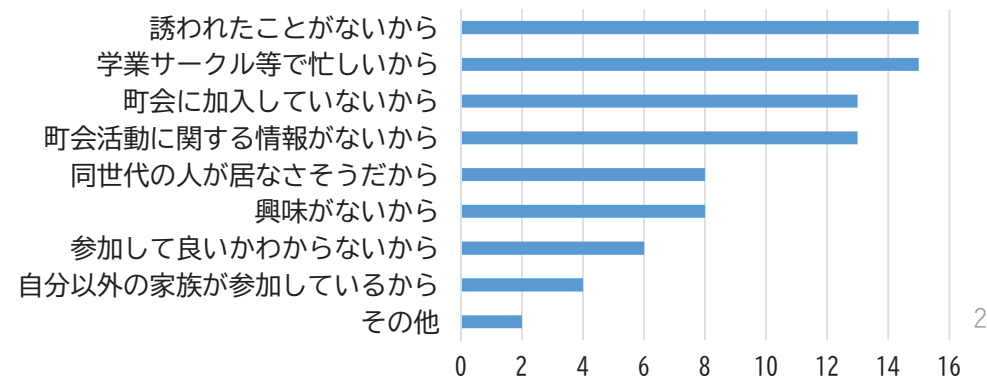
Q6. 最近（直近1年程度）町会活動に参加したか。



「はい」の詳細

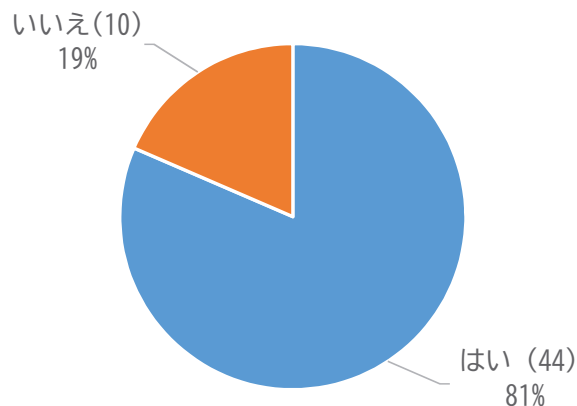
- ・ 納涼祭等のお祭り
- ・ 緑地帯の清掃
- ・ 一斉清掃
- ・ 1年間の活動報告会
- ・ ゼミ活動
- ・ ボランティアグループでの活動
- ・ 役員としての参加

「いいえ」の理由



1 アンケート調査について

Q8. 学生が町会と関わりを持つことは必要だと思うか。



「いいえ」の理由

【時間・負担の問題】

- ・ 参加する時間が取れない。
- ・ 学生のため忙しい。
- ・ 疲れる。

【その他】

- ・ 必要性を感じない。
- ・ 町会がよくわからない。
- ・ 1年で引っ越すため。

「はい」の理由

【防災・安全面】

- ・ 災害時・非常時の備え及び共助のため。
- ・ 緊急時の安全確認や素早い行動のため。
- ・ 顔見知りが増えることで、防犯面での安全性向上

【地域理解・貢献】

- ・ 住む地域について知ることが大事
- ・ 地域密着型大学として地域課題をより理解出来る。
- ・ 住みやすい環境作りに住民が主体的に取り組む必要性
- ・ 地域活性化・地域貢献に寄与出来る。

【個人の成長・経験】

- ・ 経験の幅を広げることができる。
- ・ 人生のアドバイスがもらえる貴重な経験

【世代間交流・コミュニケーション】

- ・ 幅広い年代の人と関われる。
- ・ 世代間論争の助長を防ぐ。
- ・ コミュニケーションの場が広がる。
- ・ 人脈拡大のため。

【学生・若者の役割】

- ・ 町会の高齢化に関する対策として学生の参加が必要
- ・ 若い人の力が必要な活動がある。
- ・ 学生目線の意見も必要
- ・ 若い世代に町会の魅力を伝えることができる。
- ・ 地域の次代を担う世代としての責任

【その他】

- ・ 寮と町会の関係維持のため。

2 アンケート結果の考察

(1) 学生の町会参加に対する意識

- 最近、町会活動に参加したという割合は約3割
- その一方で、学生と町会が関わりを持つ必要性については、約8割の学生が必要と回答
 - 学生の町会参加に対する意識は、意外と「前向き」
 - 参加してみたい気持ちはあるけれど、参加できていない現状がある。

(2) 学生の町会参加を阻んでいるもの

参加していない理由の上位は…

- ①「誘われたことがないから」 そもそも声を掛けられたことがない。
- ②「学業・サークル等で忙しいから」 学生は学業・サークル・アルバイト等で多忙
- ③「情報が無いから」 参加する・しない以前に町会について知らない。情報が無い。
- ④「同世代の人がいないから」 一人では参加しづらい。参加しても浮きそう。
- ⑤「興味がないから」 町会活動そのものに関心がない。

→ 参加機会や情報の不足、心理的なハードルの高さがある。

3 課題提起

学生の町会参加の「壁」をどう取り除くか？

誘われたことがない

きっかけさえあれば
参加してみたい

「地域活動に関心のある学生」と「学生の力を借りたい町会」とをマッチングできないか。

学業等で忙しい

全部ではなく
部分的になら関われる

必ずしも加入や通年参加に拘らず、無理のない範囲で関われる緩やかな参加形態が認められないか。

情報がない

回覧板以外の方法で
情報が欲しい

学生が町会情報にアクセスできる経路の確保や伝わりやすい情報発信の工夫ができないか。

同世代の人がいない

仲間と一緒になら
参加しやすい

個人ではなく、複数人（学生団体・サークル単位）で町会に関わる機会が作れないか。

興味がないから

自分に必要な情報には
関心がある

学生たちの関心が高い「防災」や「イベント」を入口することはできないか。

4 町会とつながろうプロジェクト

地元の町会に
こだわる場合

情報発信部門

学生の入学時をねらい、自分の暮らす町会が分かる＆加入の検討につながる情報を発信

- 町会連合会と市が連携し、各大学の入学ガイダンス時に町会活動について周知
- その際、QRコードを配布し、自分が暮らす町会情報（防災・イベント情報等）にアクセスできるサイトやオープンチャットへ誘導

町会 学生が参加しやすい環境づくり（町会費の減額、一部活動の免除など）

行政 大学との調整、情報発信の仕組みづくり、各町会の情報発信に対する支援

効果 学生たちが自分の暮らす町会について知る機会が生まれ、町会参加が促進される。
町会の情報を得ることで、学生自身の安心・安全な暮らしにもつながる。

4 町会とつながろうプロジェクト

地元の町会に
こだわらない場合

マッチング部門

団体・サークル単位で町会活動に参加できるマッチングの仕組みを構築

- 地域活動に関心のある学生団体・サークルを募集
- 町会からの依頼に基づき、学生団体・サークルを町会へ派遣
例) 町会行事等へのブース・屋台出店、運営ボランティア、パフォーマンス披露など

町会 学生の受け入れに必要な町会内の調整

行政 マッチングに関する事務、学生の活動に必要な経費（交通費等）の支給、受け入れ町会への補助、参加インセンティブ（例：クーポン券の配布）の検討

効果

学生たちがそれぞれの得意分野を生かすことで、地域活性化に貢献できる。
交流により町会活動への心理的なハードルが下がる（将来的な町会加入も期待できる）